

平成28年度第1回

三沢市総合教育会議議事録（公開）

総務部総務課

## 平成28年度第1回三沢市総合教育会議

1 開催日時 平成29年1月18日（水）10:00～11:15

2 開催場所 三沢市役所大会議室

3 出席者

(1) 市長 種市 一正

(2) 教育委員

委員長	宮野 楠見
委員長職務代理者	山田 妙子
教育委員	相沢 靖恵
教育委員	立花 肇
教育委員（教育長）	吉田 健

4 事務局

(1) 総務部

総務部長	小泉 富男
参事兼総務課長	佐々木 亮
総務課長補佐	田中 浩
総務課人事管理係長	山本 真人

(2) 教育委員会事務局

教育部長	山本 智香子
教育総務課長	長根 正登
教育総務課長補佐	種市 剛大
学務課長	蝦名 隆至
学校教育課長	工藤 正彦

5 会議次第

(1) 開会

(2) 市長挨拶

(3) 議事

「三沢市教育大綱」に基づく施策の実施状況について

## 6 会議の概要

### 【小泉総務部長】

皆様おはようございます。本日の司会を務めます総務部長の小泉と申します。

なお、立花委員につきましては、所用により遅れるとの連絡がありましたので、ご報告申し上げます。

それでは、開会に先立ちまして、確認をさせていただきます。

本日の会議について、マスコミの方から傍聴の申し出がありました。本会議は、三沢市総合教育会議設置要綱第6条の規定により、非公開とする必要がある場合を除き、原則公開とするとしております。

よって、本日の会議を公開するという事で、ご異議ございませんでしょうか。

### 【異議なし】

ご異議なしとのことですので、会議は、公開で進めることといたします。ただいまから、平成28年度第1回三沢市総合教育会議を開会いたします。

本日の会議は、お手元の資料の次第に沿って進めさせていただきますので、よろしく申し上げます。

まず、はじめに、種市市長よりご挨拶申し上げます。種市市長、よろしく申し上げます。

### 【種市市長挨拶】

改めて、おはようございます。ご挨拶申し上げます。

本日は、大変お忙しい中、第1回三沢市総合教育会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、委員の皆様には、平素より市政各般にわたり、格別のご高配を賜り、衷心より厚く御礼申し上げます。

さて、ご承知のとおり、この総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正されまして、平成27年4月から全国すべての自治体でスタートしたところであります。当市におきましては、委員の皆様のご尽力によりまして、昨年3月に、「確かな学力」の育成、「豊かな心」の育成、「健康で活力のある体」の育成の、3つを基本方針とした、いわゆる「三沢市教育大綱」を策定させていただきました。

この場をお借りしまして、改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

また、去る1月8日に開催されました三沢市成人式では、委員の皆様をはじめ、多くの市民の皆様にも参加をしていただき、新成人の門出を祝福いたしました。

この式で私は、社会の中で自立して豊かな人生を送っていくためには、「夢や目標を達成するには努力を惜しまないことが大切で、栄光には近道はない」と、新成

人に向けて、激励の言葉を贈らせていただきました。

その礎となるのが、まさに小学校、中学校での学校教育や、社会教育など、いわゆる9年間の義務教育課程が一番重要な年代だと思っているところであります。

このようなことから、委員の皆様には、未来を拓く子どもたちのために、教育行政に対しまして、引き続きご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

本日の案件につきましては、「三沢市教育大綱」に基づく施策の実施状況について、担当課から説明させますので、委員の皆様には、忌憚のないご意見いただき、活発な意見交換の場となりますよう、お願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

本日は、よろしくお願いいたします。

#### 【小泉総務部長】

ありがとうございました。

それでは、議事に移ります。

本日の案件は、1件となっております。三沢市総合教育会議設置要綱第4条第3項の規定に基づき、会議の議長は市長が務めることになっております。種市市長、議事進行につきまして、よろしくお願い致します。

#### 【種市市長】

それでは、しばらくの間、議長を務めて参りますので、委員の皆様方のご協力をよろしくお願い致します。

それでは、さっそく、議事に入りたいと思います。

「三沢市教育大綱」に基づく施策の実施状況について、事務局から説明願います。

#### 【工藤学校教育課長】

学校教育課の工藤と申します。よろしくお願い致します。

「三沢市教育大綱」に基づく施策の実施状況について、ご説明いたします。

お手元の資料の1ページをご覧ください。

三沢市教育大綱は、将来、児童生徒が創造性や個性を生かしつつ、社会の中で自立して豊かな人生を送れるよう、次の3つの育成方針を以って構成されています。

それでは、3つの育成方針について主な取組と現在の状況について、ご説明申し上げます。

1 「確かな学力」の育成でございます。

基礎的な知識や技術の習得と、それを活かして自ら考え、様々な問題に積極的に対応し、解決する力など「確かな学力」を育てることを目指しております。主な取

組みといたしましては、(1) 授業の充実に向けて次の4つを重点に掲げ、学校教育を推進しています。

ア、よりよい授業にするための「教材研究」の深化、これは、子供の実態把握や教材準備、発問や評価に応じた手立て等を準備して授業を行うこと。

イ、主体的な学びの力を育むための「問題解決的な学習」の工夫、これは、変化の激しい社会をよりよく生きるために、問題解決能力を高めること。

ウ、学習内容の確実な定着のための「指導と評価」の一体化、これは、取組状況や学習結果の評価を確実に行い、その後の指導に生かすこと。

エ、確かな学力を育成するための「学習意欲」の向上と「学習習慣」の確立、これは、諸調査結果からは、学力の向上に関して、学習意欲や学習習慣に課題があると指摘されていることから、意欲や習慣づくりを大切にすること。

(2) キャリア教育の充実に向けて以下の3つを重点に掲げ、学校教育を推進しています。

ア、校内推進体制の整備、充実、これは、キャリア教育担当者を校内分掌に位置づけ、全体計画等を作成し、全校計画等を作成し全体体制で取り組むこと。

イ、体験活動の充実、これは、家庭や地域社会の協力を得た体験活動、例えばゆめ実現事業、あるいは、職場体験の工夫を行うこと。

ウ、進路相談の充実、これは、将来に対する夢や希望をもたせるとともに、不安や悩みを解消するよう進路相談等を行うこと。

次に2ページをご覧ください。現在の状況でございますが、文部科学省で全国の小学校6年、中学校3年生を対象に実施している全国学習状況調査結果の平成26年から平成28年分までを表及びグラフで示しております。国語Aに関する問題については、この3年間の正答率が全国を上回っております。また、全国に対しての到達率は、106.2から107.7となっております。県に対しましては、平成26年度は、やや上回ったものの、平成27年度、28年度はほぼ同程度の正答率でありました。

国語Bに関する問題についてもA同様に、この3年間の正答率は、全国を上回っております。全国に対する到達率は、106.1から107.2となっております。県に対しましても上回っている状況であります。

続いて3ページをご覧ください。算数Aについては、この3年間の正答率が全国を上回っております。また、全国に対しての到達率は、103.0から105.8となっております。県に対しては、平成26年度は、やや上回ったものの、平成27年度、28年度は、ほぼ同程度の正答率でございました。算数Bについては、この3年間の正答率が全国を上回っております。また、全国に対しての到達率は、101.1から107.6となっております。県に対しては、平成26年度は、上回ったものの、平成27年度、28年度は、やや下回る結果となっております。この算数B問題について

ては、平成27年度及び28年度ともに、全国や青森県も同様であります。正答率が50%に達していない状況にあり、大きな課題であるにとらえております。

次に4ページをご覧ください。同じく全国学力学習状況調査結果の中学校の状況についてでございます。中学校3学年の国語Aについては、平成26年度と平成28年度は、正答率が全国をわずかに上回りましたが、平成27年度は、下回る結果となりました。また、全国に対しての到達率は、97.8から100.5となっております。県に対しては、3年間とも下回っております。国語Bについては、平成26年度と平成27年度は、大きく下回っていましたが、平成28年度は、全国を上回っております。全国に対する到達率は、95.7から103.0となり大きく変化しております。県に対しても、平成26年度と平成27年度は、下回っていましたが、平成28年度は、大きく上回る結果となっております。

次に5ページをご覧ください。数学Aについては、平成27年度の正答率が、全国を上回っていましたが、平成26年度と平成28年度は、やや下回る結果となりました。また、全国に対しての到達率は、96.6から101.4となっております。県に対しても同様であり、平成26年度と平成28年度は、大きく下回る結果となっております。数学Bについては、平成26年度、27年度は、全国と同じ正答率でありましたが、平成28年度は、下回る結果となっております。また、全国に対しての到達率は、97.7から100.0となっております。県に対しては、平成27年度については、上回ったものの、平成26年度と平成28年度は、下回る結果となっております。小学校の算数Bと同様に、ここ2年間は「活用に関する問題」いわゆるB問題の正答率が50%を大幅に下回っている状況であり、大きな課題であるにとらえております。

次に6ページをご覧ください。育成方針の二つ目「豊かな心」の育成でございます。自分を大事にし、人を思いやる心や感動する心など「豊かな心」を育てることを目指しております。主な取組みといたしましては、(1)生徒指導の充実に向けて次の3つを重点に掲げ学校教育を推進しております。

ア、協同指導体制の充実、これは、実態に応じた目標と指導計画を策定し、取組を定期的に点検・改善し、全教職員による協同指導体制づくりを行うこと。

イ、自己有用感を高める授業や学年、学級経営の充実、これは一人ひとりの居場所や出番があり、共感的な人間関係づくりが行われるような、学年学級経営に努めること。

ウ、個に寄り添う教育相談などを通し、一人ひとりの内面を理解するとともに、悩みや不安などの解消に努めること。

(2) 道徳教育の充実に向けて以下の3つを重点に掲げ、学校教育を推進しております。

ア、道徳教育推進指導体制の整備、充実、これは、校長の方針の下、道徳教育推

進教師を中心として、全教職員が協力して行うこと。

イ、道徳の時間の指導の工夫、これは、魅力的な教材や実践事例集を積極的に活用し、多様な指導の工夫に努めること。

ウ、「私たちの道徳」の効果的活用と家庭や地域社会との連携、これは、「私たちの道徳」（文科省）を活用するとともに、保護者の参加や地域への情報発信を行うこと。

次に、7ページをご覧ください。（3）特別活動の充実に向けて次の3つを重点に掲げ、学校教育を推進しております。

ア、望ましい集団と個性の伸長のための話し合い活動の充実、これは話し合う活動を通して、望ましい人間関係づくりや自治的な活動を進めること。

イ、児童生徒の手による生活づくりの推進、これは、学校生活上の諸問題の解決に向けて、話し合って決めることを実行し、守る活動を行うこと。

ウ、各行事における感動、連帯感を高める指導の充実、これは、行事のねらいや意義を理解させ、目標をもたせて取り組ませ、感動があり、連帯感を育むよう各行事を充実させること。これらについての現在の状況についてですが、生徒指導状況報告書の過去5年間の問題行動、いじめ、不登校等をグラフで示しております。はじめに小学校について年間に問題行動で指導された児童数は、平成24年度に69人と増加し、その後平成26年度まで減少傾向にありましたが、平成27年度は、大きく増加し、69人となっております。平成27年度の内訳は、「いじめ」43人、「万引き」17人などでございました。この他の年度も同様に、いじめと万引きで指導された児童が大半を占めております。いじめで指導された児童数と認知件数については、平成24年度に44人、認知件数が22人と最大となりましたが、その後、平成26年度まで減少傾向でありました。平成27年度に大きく増加した理由は、文科省から積極的な認知と、解消を図るよう指導がありました。今までは、軽微なものとしていたものを、いじめとして積極的に認知して指導しましょうということで、件数としてとらえております。

次に、8ページをご覧ください。中学校について問題行動で指導された生徒数は、平成25年度に288人と大きく増加し、その後大幅に減少しております。理由は、「いじめ」の指導人数を反映していることによるものであり、問題行動で最も多いものは、小学校と同様に「いじめ」となっております。その他に指導される問題行動としては「万引き」や「生徒間暴力」、「器物破損」などがあります。いじめの減少に伴って問題行動で指導された生徒数は、平成27年度は、ここ5年間で最少の59人となっております。中学校のいじめの指導人数と認知件数は、平成25年131人をピークに大幅に減少しております。その理由といたしましては、平成25年9月に「いじめ防止対策推進法」が施行され、各学校では「学校いじめ防止基本方針」を策定し、それに基づき対応したことや、社会全体での「いじめを許さない」

意識の高まりなどがあると思われま。いじめの様態については、(1) 冷やかし、からかい、悪口や脅かし文句、嫌なことを言われる。(2) 仲間はずれ、集団による無視、(3) 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。が、主なものとなっております。課題としては、組織的ないじめの認知と積極的ないじめの認知、情報の共有化、未然防止対応が挙げられます。

次に9ページをご覧ください。小学校の不登校については、平成24年度から増加傾向にあります。また、登校しぶりや遅刻、早退を繰り返すなどの不登校傾向の児童も、やや増加傾向にあります。このグラフの数値といたしましては、30日以上欠席した児童でございますが、登校していても登校しぶりや遅刻、早退を繰り返すものでプラス10名ほどとなっております。平成26年度の不登校児童の出現率は、全国0.39%、青森県0.33%、三沢市は、0.53%となっており、高い出現率となっております。中学校の不登校については、平成23年度から減少傾向にありましたが、平成27年度は、大きく増加に転じております。小学校と同様に不登校傾向も含めると、さらに10名ほど増える状況にあります。中学校の不登校生徒の出現率は、全国2.76%、青森県2.62%、三沢市は、3.15%となり、小学校と同様に高い出現率となっております。不登校については、小学校の増加傾向や高い出現率となっている状況から、今後の重要な課題であるものととらえております。

次に、10ページをご覧ください。育成方針の3つ目「健康で活力のある体」の育成についてでございます。たくましく生きるため、「健康で活力のある体」を育てることを目指しております。主な取組みといたしましては、(1) 体育、健康教育の充実に向けて次の4つを重点に掲げ、学校教育を推進しております。

ア、主体的に体力を高める指導の充実、これは、教育活動全体を通じた運動やスポーツに親しむ機会の設定及び教科体育を中心として体力向上に努めること。

イ、保健、安全指導の充実、これは、健康課題を明確にし、健康な生活を実践できることや、災害発生等に対応した危険回避や安全な行動ができる指導を行うこと。

ウ、食に関する指導の充実、これは、給食や学級指導等の時間において、食に関する指導に努め、日常の生活に生かすことができるようにすること。

エ、家庭や地域社会との連携、これは、健康、安全のために、家庭や地域に積極的な情報発信に努め、町内会と合同の避難訓練の実施など関係機関等と連携した組織的な活動を進めること。

次に、11ページをご覧ください。現在の状況につきましては、学校保健統計調査報告より肥満傾向児の出現率と体力テストの得点をグラフに示しております。三沢市の小学校6学年の肥満傾向出現率は、全国に比べて、平成26年度と平成27年度は2%以上高くなっております。県との比較では、1%以上低くなっております。中学校3学年については、ほぼ同様の傾向であり、全国より2から3%ほど、肥満傾向児の出現率が高くなっております。体力テストのTポイントの合計点とい



うことでグラフを載せております。体力テストT得点については、小学校6学年男女ともに、平成26年度、平成27年度において、県平均を下回っております。特に、平成27年度の小学校6学年女子は、3.3ポイントも低くなっている状況となっております。種目別においては、男女ともに「50m走」、「反復横とび」の得点が低くなっております。平成27年度においては、県平均を上回った種目はございませんでした。次に、中学校3学年については、男女ともに、平成26年度、平成27年度において県平均を上回っております。特に、男女とも「ボール投げ」や「握力」が高い得点となっております。中学校での運動部活動等の成果が考えられるものととらえております。

最後に今後の展開についてでございますが、三沢市教育振興基本計画に基づき、安全、安心な教育環境のもと、グローバル化の進展など、変化の激しい社会を生き抜く力の養成を図り、夢を実現する人づくりを目指します。このために、8つの教育成果の目標に向けた取組みを推進して参ります。説明は以上となります。

#### 【種市市長】

ありがとうございました。

それでは、委員の皆さんからご意見等を伺いたいと思います。

まず、宮野委員いかがでしょうか。

#### 【宮野委員】

3つ目の目標の中で、やはり学力もまだまだ数値を上げて行かなければならないと思っております。体力についても数値がちょっとまだ低いところもありますが、私自身は、不登校について非常に懸念しております。

やはり学校に出てこられない子どもたちの将来ということを考えますと、高校への進学と更なる学力等を身につけて社会へ送り出してあげたいと、家庭問題等もあると思いますが、中々学校に出てこられない、学校指導教室等一生懸命「力」を入れておりますが、不登校の数値が中々減ってこない、しかも増加傾向にあり、特に危惧するのが低学年と言いますか、小学校でも不登校の数値が少しずつ高くなってきているのが、心配になってきておりますので、先ほど申し上げましたように、その子の将来ということ考えたときに、何とか改善していきたいという思いを強くもっておりまして、定例会等でも先生にお願いをしている状況であります。以上です。

#### 【種市市長】

ありがとうございました。では、山田委員いかがでしょうか。

## 【山田委員】

私たちは、年に1度学校訪問というものがあまして、先生方の授業参観をみさせていただいております。そして、その後は、校長先生方と学校経営について、色々お話しを伺う機会を持っております。授業参観といっても少し見学するだけで授業が云々というものではなく、先生と子どもたちが元気よく楽しく授業をしている様子を拝見させていただいております。いつも感じるのですが、先生方は、一生懸命で子どもたちもとても楽しく授業をしている風景をいつも見させていただいております。先生方の熱意が伝わってきます。そして、校長先生はじめ、教頭先生、教務の先生方との学校経営の話の中で、いつも問題になるのは、ついていけない子どもたちを何とか底上げしたいということです。

そのためには、学習支援員を増やしていただきたい。それから、豊かな心の育成の中で常に寄り添う教育相談の充実ということをやっておりますが、中学校では、第三中学校を除いて心の相談員を配置していただいております。この方々は、学校を退職した先生方がほとんどとなっており、生徒と年齢差がかなりあるものです。教育は、年齢差が少ないほどしやすいと言われております。相談しやすい、そういう年齢層の方を配置していただければと思っております。その提案の一つとして養護教諭2人制にしたらどうか。1人の養護教諭は、普通の養護教諭として、もう1人を若い新採の養護教諭を子ども相談員に充てる。そうすると子どもたちと年齢差が近いことから生徒たちは気軽に相談にいけるのではないかと思っております、そういう子どもたち

を救うことができるのではないかと。養護教諭2人制として県教育委員会にお願いしなければならないと思っておりますが、そういうことも考えております。

最後に、健康教育で昨年、上久保小学校で実施した健康大会に参加いたしました。学校全体で取り組んでいる姿、そして、当日は、歯の健康についての勉強会でした。各学年で歯について、勉強したものを自分たちでこれからこういう風にして守っていく、健康について考えていくという学年ごとに発表があり、学年に沿った指導がきちんとなされているという事で感動しております。そして、講師の学校歯科医の先生の適切なアドバイスがあり、学年ごとにきちんと指導して、ほめて、これからご父兄とこのようにやっていければもっと健康になるというものを、学年ごとにきちんと説明していただき、そういう事も成果を上げているのかと思っております。それから歯の健康で県の良い歯のコンクールで三川目小学校は全員、そして木崎野小学校も賞に入りました。その歯の健康については、これまでもフッ素洗口を前から行ってこれ功を奏しているものと思っております。以上です。

【種市市長】

ありがとうございました。では、相沢委員いかがでしょうか。

【相沢委員】

まず、学力の方ですけれども、主な取組の中で、確かな学力の育成するための「学習意欲」の向上というところに関しては、学習状況調査の結果から小学校はまずまずとして、中学校になると下がるという、特に数学の方で数年前から続いています。

取組の方は毎年毎年研究されて学校の方でそれぞれ先生方も結果を基にやっていると思うのですが、それが中々結果に現れていないというのが気になります。それを解決するためには、学習意欲の向上というのがとても大切だなと思っています。そのために何をすればいいのかと考えた時に、教育大綱の始めの方がありました新たな視点と柔軟な発想の変化によってやっていくということがまちづくりにもつながるし、教育の方にも当てはまるんじゃないかと思います。今まで研究してやってきた先生方の努力もありますが、新たな視点・発想という点で、今一度柔軟に考えてみてはどうかなという気がしています。これまでのものでも中々結果が現れないということを踏まえると、もう少し広い範囲で、どんな方法がいいのか、国内外を問わず色々なものを調べてみたり参考にするという意識を持って新たな取組というものも考えてみる必要があるのではないかと思います。

それは、学校の単位でそれぞれというのは不可能だと思いますので、三沢市として確かな学力を考えるのに、大きなものをやる時には市として協力していくという姿勢も必要なのかなと思いました。それは、いずれみんな社会人になるわけですから、自分で自分に道を切り開いて生きていくということにも、自分で意欲を持って取組んでいくというのは、それにもつながりますので、勉強ということでその姿勢も確立されていけば、将来的にもいいのではないかなと思っています。あと、道徳に関してなんですけれども、色々と取組み、授業の方も進んでいると思いますが、道徳の心、豊かな心というのは、日常生活の中で培われるというのが実践的だと思っています。日常の学校生活の中での生徒との関わりの中で、そういう気持ちを育てていくというのも忘れずに重要なポイントとして豊かなこころ教育というものを進めていく姿勢が必要かなと思いますので、教えるということに重点を置きすぎると見逃してしまいがちになる気がしますので、その辺に気を付けて取り組んでほしいと思います。以上です。

【種市市長】

ありがとうございます。それでは、立花委員いかがでしょうか。

## 【立花委員】

私も先ほど宮野さんが言ったとおり、不登校について大変に危惧しております。特に中学校3年生の子供たちが多く、自分が思うには、卒業すれば減るのかなあと思えば、段々に学期を追うごとに増えている。予備軍といえいい表現ではないのかもしれないですけども、毎年のように段々と、5月の連休、夏休み、そういう休み明けごとに若干増えてくるというので、何とかして不登校の子供たちを減らすことに重点を置いてもらいたいなと思います。それと、もちろん指導体制もできているのでしょうけれども、実際、去年、国際交流教育センターに私たちもうかがって、指導員の方からお話を聞いておりますが、本当に限られた子供、時間の中での勉強ということでもまだまだ普通の義務教育には足りないものもあるだろうし、団体行動という、そういう中でも揉まれることも結局できないで、また、次の段階へ行くということですので、特に三沢は他の市町村と比べても多い傾向にありますので、その辺をもう少し子供の将来と親御さんのことを考えれば、何とかしてこれを減らす体制を取っていかねばいけないのかなと感じております。

あとは学力についても高いことにこしたことはないと思いますけれども、教育長さんからも高校の進学等も最近は頑張っているということですので、それはそのまま維持してもらいたいなと思います。一部の例なんですけれども、おおぞら小、三中で小中一体校ですか、そういう体制になって何年か経過していますけれども、勉強についてこられない子をなくすとか、色々な体制があるんですけども、それなりの結果を残しているので、市内で小学校から中学校へそのまま上がるというのは無いと思いますが、中学校になればいくつかの小学校が集まってくるので、難しいとは思いますが、もう少し小学校、中学校の連携を密にして極力、勉強についてこられない子を無くするような連絡体制を取っていければいいなと感じております。あと、食に関してですが、他の市町村が行っているかわかりませんが、バイキング給食ということで、委員三人ほど木崎野小学校さんに伺いました。そして、色々給食センターの方から説明があって、私たちも子供たちと一緒に給食を食べました。食に関するいろいろな知識を子供たちに教えるというのも意義があるだろうし、市長さんはそういう経験がございますか？（市長：「はい。」）他の市町村はどうなんですか？（学校教育課長：「一部あります。」）子供たちには楽しい給食の時間を過ごせる、そして食の大切さを学びながらというのは良いことなので、ぜひ、大いに継続して欲しいと感じています。あとは、悲しい事件で、去年、木崎野小学校の子供が亡くなりました。学校だけで見守るということは非常に難しいところもあって、今も確かに地域との交流ということを学校で取り組んでいますが、より一層、子供たちを地域の人たちが一緒に登下校も含めて見守るという体制を強化していけば悲惨な事故も防げたのかなあと感じております。以上です。

**【種市市長】**

ありがとうございます。それでは、吉田委員いかがでしょうか。

**【吉田委員】**

今回の議事であります三沢市教育大綱に基づく施策の実施状況について総論としてお話しさせていただきます。

まず、教育大綱の1、「確かな学力」の育成については、ここ5年間の結果の小中9年間を通した到達度の結果の推移として、年度により多少の差はあるものの、ほぼ同じ傾向で定着しております。今後においては、確かな学力として、従来の基礎基本から、応用としての活用力、解決力が重視されることから、強化を図ることとしております。次に、教育大綱の2、「豊かな心」については、特に「命の保証」を第1とし、学校での生活行動を中心に、様々な角度から情報を収集・確認し、それに則した対応策を、スピード感をもって実施している状況であります。今後もこの体制を継続していきたいと思っております。次に、教育大綱の3、「健康で活力ある体」の育成については、学校における保健指導の円滑な実施及び健康の基礎となる給食や食育指導の実施並びに家庭や地域社会と連携した安全・安心確保への対応として、関係機関からもご支援を頂き、避難訓練、交通安全指導等を組織的に実施し、スポーツ振興活動等への支援等も含め、健康でたくましく生きるための教育環境の整備を図って参りたいと思っております。

最後になりますが、市長さんには、総合教育会議の主催者ということで、又は、市政の運営ということで、これまで教育分野については、相当な力を入れてもらっております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。以上です。

**【種市市長】**

大変、貴重なご意見を頂いたわけですが、何かこれについて事務局でお話しがありましたらお願いします。

**【工藤学校教育課長】**

今、委員からご指摘等を頂いたことですが、実は、今いわれておりますアクティブ・ラーニングの視点から学習意欲のお話が出ましたが、意欲の面がクローズアップされておまして、主体的で対話的であるということで学校教育が変わろうとしています。その一つの手立てとして、今ご指摘ありましたが学校教育の中だけでは対応できないということが明らかになってきておまして、地域と一緒に子供を育てる、守るという活動、いわゆる、地域に開かれた教育課程と私たちの中では言っているのですが、学校の経営に対して地域の力をどんどん入れたり、地域に発信したり、

そして、一緒に育てて行こうと。そして、子供の社会や自分の生き方のことを考えて学ぶということ。今まで、知識、技能があればいいと。この後、学んだ事をどう生かして、どう社会とかかわっていくか、地域の中で自分の要素をどう発揮していくかということ、学校教育の中でも学んでいきたいと思います、ご指摘の通りでございます。

もう一つは、その大前提となることは、命の保証ということでございますので、安全、あるいは食も含めて命については、学校としても様々な面でこれからも支援していきます。そして、先程と繰り返しになりますが、一番大きな問題が、不登校の対応ということで、将来の自己実現、夢の実現のためには、学力も人とのコミュニケーションも欠かせない要素でございますので、何とかして不登校の減少、解消にこれからも努めたい。学校の範囲を超えた流れ、組織的な対応ということで検討して参りたいと思っています。以上でございます。

#### 【種市市長】

話の内容を聞いていますと、色々構造的に対応もあるようです。特に、山田委員が言ったようなあまり歳の差が開いていると子供たちが近寄り難いというのもあるようです。私も今年の正月に、子供たちがいっぱい来てワイワイやっていたけれども、どういうわけか、大人に寄ってこないというか、子どもは子どもで、子どもの方ばかりに寄っていくんですね。相手がわかるんだなあと、そういうことを思いました。ですから、教育というのは、先生を生徒が好きにならないといけませんね。いろいろと考えていかなければならないですね。貴重なご意見、ありがとうございました。

今日は、意見を述べてそれに答えるということではなくて、みんなで意見を出し合って、教育行政の中で活かしていくという会議でありますから、それぞれの声がありますので、お互いに認識してこれからもやっていきたいと思えます。

では、せっかくの機会でありますから、これ以外に何かあったらお願いします。

#### 【宮野委員】

先ほど命の保証ということがありましたが、私自身は、今年の夏休み、2学期に入る直前に、青森県の中学生二人が自ら命を絶ったというのに非常に衝撃を受けております。東北町と浪岡町です。特に浪岡町の女の子については、手踊りの写真なんかでマスコミに大きく取り上げられていますけれども、前の教育長時代に、いじめ問題連絡会議というのが6、7年続きまして、その中で、結構、いじめ問題というものを色々と読んだり、人の話を聞いたりした覚えがあるんですが、自分をアピールする場がある人は、中々自ら命を絶つというのではない。苦しいことがいろいろとあるかもしれないけど、あの女の子は手踊りをみなさんに評価してもらえる場があったんですけども、ああいう子でもそういうことになったことが非常に大きな衝撃を受けておりました。

て、いろいろ今はSNSも含めて時代が変わってきておりますけれども、将来のある子の悲しい事件を三沢から絶対に出したくないと、みんな共通した想いだと思いたすが、そういう強い決意で臨んでいきたいなと思っております。

#### 【山田委員】

成人式のことなのですけれども、素晴らしい成人式でした。しおりから始まって、式典が始まる前の成人の方々の小学校、中学校の時の様子、そして最後に名前がずつと出ました。それで、成人の方々がすごく一生懸命に見入っていました。そして、静かになった後で式典が始まったものですから、素晴らしい市長さんのお話から始まって、素晴らしかったなと思いました。ほっき貝の歌というのが5分くらいありましたが、とても良かったです。そういうのをまた来年も続けて欲しいなと思いました。

その時に、民俗芸能公演会というのが次の日あるのですが、各部落の神楽とかそういう公演ですが、その中から時間を5分か10分くらいに短くして、郷土芸能をそこで発表させたらもっと素晴らしいのではないかなと思います。そして、後継者に悩んでいるのをいくらかでも解消できるのかなと、そういう思いをしながら成人式を考えていました。本当に素晴らしい成人式でした。

#### 【種市市長】

やっぱり、二十歳になるまでの生い立ちは、あれは良いですね。  
他にありますか。

(他に意見等なし)

他にないようですので、引き続き、皆様にはよろしく申し上げます。  
今日の貴重なご意見等を含めて教育行政を進めていければなと思いたす。  
大変、意義ある会議でありました、ありがとうございました。

#### 【小泉総務部長】

以上をもちまして、平成28年度第1回三沢市総合教育会議を閉会いたします。  
本日は、誠にありがとうございました。